

## 第2回熊本県地方大学・地域産業創生交付金事業外部評価委員会 議事概要

【日 時】令和6年（2024年）12月20日（金）

～令和7年（2025年）1月10日（金）

【形 式】書面開催

【委員一覧（敬称略）】

所属・役職	氏 名
国立大学法人東京大学 特別教授	黒田 忠広
九州経済産業局地域経済部 部長	楠木 真次
日本銀行熊本支店 支店長	田原 謙一郎
一般社団法人熊本県情報サービス産業協会 代表理事会長	足立 國功

### 【開催概要】

- ・「地方大学・地域産業創生交付金制度要綱第9 効果の検証」にあるとおり、重要業績評価指標（KPI）の達成状況について、毎年度検証することが必要。
- ・本県の検証方法として、本県及び熊本大学で取組内容について自己評価を実施し、その自己評価及び重要業績評価指標（KPI）を外部評価委員会が評価・検証を行う。

### 【評価結果】

#### （1）地方大学・地域産業創生交付金に係る自己評価について

本県及び熊本大学の自己評価について、委員全員から「妥当である」と評価された。

#### （2）KPIの達成状況について

重要業績評価指標（KPI）について、委員全員から「計画どおり進んでいる」と評価された。

#### （3）交付金事業の進捗について

委員より意見のあった交付金事業の改善点について、現時点で想定している対応方針を回答した。

- ・ 人材育成の面で、高専との連携・取り組みに若干の遅れが見られることから、産業界の知見を活かすなど、今後この点に工夫が必要であるように思われる。

→ 高専とは連携教育プログラムと並行して、新たな教育プログラムについて協議するなど、早期実施に向けて取り組んでいる。産業界の知見の活かし方については検討したい。

## (その他の意見)

- ・ 外部資金の獲得件数が、今後計画どおりに増加することを期待する。
- ・ 本事業は半導体産業が集積する熊本の特性を活かし、半導体分野の専門人材を育成し地域産業の発展を図るための重要な取組である。また、産学官による三次元積層実装製造プロセス技術開発の取組は、世界の半導体技術を牽引していく可能性があり今後とも期待している。
- ・ 日本で初めてとなる学士課程での半導体コースの設置や高専・短大・他地域の大学との連携など、半導体分野の専門人材育成がスピーディーかつ着実に進んでいる点、そして地域の半導体産業への人材輩出が着実に進められている点を高く評価したい。
- ・ 地域企業と大学との共同研究においては、優れたコーディネーターのサポートにより新たなプロジェクトが生まれており、コンソーシアムのエコシステムがうまく機能している。特許出願が進んでいることも評価したい。
- ・ これから事業3年目を迎えるにあたり、特許出願から商業化に至る案件の創出など、熊本大学を拠点として官民連携による共同研究の成果が生まれていくことを期待している。

以上